# 地域青年会との協働による若者の山村 一都市交流 と新たな地場生業の創出

## 事業実施報告書



平成29年3月

大正大学 地域創生学部地域創生学科 大川洋史研究室 出川真也研究室 東京農業大学 多摩川源流大学プロジェクト事務室

### 目次

### 本編

- 1はじめに・・・4
- 2本年度事業の取組み内容・・・5
- 3事業 (調査) 結果と考察・・・9
- 4 今後の方針・・・10
- 5 その他の首都圏等での PR や波及展開活動・・・12
- 6終わりに・・・12

### 資料編・・・13

- ①地域調査カード
- ②食文化カレンダー
- ③地域意見交換会報告資料 (レジュメ・イメージ紙芝居)
- ④中間報告プレゼン資料
- ⑤最終報告プレゼン資料

#### 1はじめに

H28 年4月に設置された大正大学地域創生学部地域創生学科では、地方地域と都市地域の連携・協働による地域創生の実現に寄与するための研究・教育活動を開始しました。特に地域に根ざした多様な活性化活動に取組むことができる地域人材の育成を目指しています。

本学部に所属する大川洋史研究室・出川真也研究室では、地域住民のアイデア創出が重要な意味を持つとともに、それら住民を構成員とする地域組織のあり方が集落活性化のための戦略的行動に大きな影響を与える点に着目して、人的資源管理や経営組織論を基盤とした研究を進めています。こうした研究を応用して、地域資源(人的・物的)の掘り起こし、外部とのネットワーク形成、地場に根ざした生業の構築といった面で、住民が主体となって集落活動を効果的に展開するための組織化や地域活性化方策について提案し実践方策を模索していきます。

本事業では、地域での交流と学習活動に取組む東京農業大学源流大学プロジェクト事務室と協働しながら、新潟県阿賀町室谷地区の青年会の皆さんと共に山村資源を活かした地域活性化推進方策について検討していきます。

### 1-1集落概要

● 集落名:新潟県阿賀町室谷地区

● 人口:115人

● 世帯数:29

● 高齢化率:35.6%

#### 1-2「集落」の課題

- 過疎化高齢化に起因する集落活動の減退や地域資源保全管理
- 一方で、集落内の若手世代層を中心に構成される「青年会」による新たな活動展開の萌 芽が見られることが注目される。

#### 1-3調査研究の目的

- 青年会がチャレンジ素養としていることに寄り添い、構成メンバーと協働しながら研 究調査活動を実施する。
- 青年会・若手世代層が軸となって地域活性化に寄与するための集落の自然。文化的資源 に根差した新たな活動プログラムや生業を提案する。

### 2本年度事業の取組内容

### 2-1本年度事業の流れ

研究目的を達成するため、現地集落にて青年会を中心としたその他地域組織等と連携・協 働して(1)地域資源調査、(2)地域活動調査、(3)意見交換会を実施する。それらを踏ま えて分析・検討し、新たな活動プログラムや生業の企画提案をおこなっていく。

#### (1)地域資源調査

自然・文化・人的資源の全 体的調査の実施

- ・森・川等の自然資源
- ・暮らし・生業などの生活文
- それらを担う人的資源

#### (2)地域活動調査

地域集落活動の参加的調 査の実施

- -伝統行事
- ・青年会を中心とする新たな ・青年会 地域行事

### (3)情報·意見交換会

地域組織とのワークショップ 型の情報・意見交換の実施

- 地元高校

新たな活動プログラムや生業の検討・提案集落活性化に寄与する地域組織に根ざした

### 2-2事業結果概要

2-2-1 地域資源調査・地元学(資料編の調査データ参照)

青年会・住民と集落の資源調査を実施 し、山林、川、食文化、住まい・暮らし、 道具などの堀越を行った。

食文化では、地元の食材、山菜を使っ た郷土料理を作って頂き、食べる時期や 調理法、山菜の価値についてなどのヒア リング調査を行った。山菜についてのヒ アリング調査では、室谷区のぜんまいは 日本で最も大きく室谷地区のぜんまい の大きさに等の出来によって、日本のぜ んまいの価値が決まってきていたとい うお話もお聞きすることができた。

川文化の調査では、実際に漁の様子を 見学させて頂き川の生物調査を行うと 同時に、漁の仕方を教えていただいた。





また、道具小屋も見せていただくことができ、漁に使う編み等も拝見させて頂くことができた。

山資源調査では、実際に山の中を歩かせていただき、山林の様子を説明して頂いた。木材資源の活用方法をお聞きし、 薪釜も見学させて頂いた。



### 2-2-2地域活動調査

(1) 9-10.11 室谷祭礼伝統行事神輿担ぎ、その後のお楽しみ会開催のお手伝い

実際に、御神輿を担がせていただき、集落内をめぐらせて頂いた。一軒一軒、飲食物が出され、それを飲みながらのお祭りに教員をはじめ殆どの学生がダウンした。飲めなくなると、ビールかけや水かけになりびしょ濡れになりながら集落内を回った。その後のお楽しみ会では、地域の子どもたちに対し、くじびきや射的、フランクフルトの販売のお手伝いなどを行った。子どもたちがとても楽しいそうに参加している姿が印象的であった。青年会をはじめとする地域の方々が、大事にし

ている雰囲気や青年会の考え方・気風といったものを肌で感じることができた。 青年会が目指しているところや求めている形は、我々研究室が求めていく方向性とイコールになる。その、方向性を改めて認識することができたお祭りであった。



(2) 10-8.9 おもっしぇぞ祭り(旧神谷分校学芸会)開催のお手伝い・見学取材・出演お祭り当日は売店など朝の準備からお手伝いをさせていただいた。また、突然舞台に上がることになったりとたくさんの経験をさせていただいた。お祭りには子供からお年寄りまで幅広い年代が参加しており、青年会の方々だけではなく子どもたちや女性の方々とも接することができた。歌や踊りなどの出し物の他、子供たちが昔話を地元の方言を使っての朗読などがあった。青年会の方々による舞いはとても力強くとても印象的だった。お祭りの終わりには、青年会を中心とした祭りを盛り上げた方々との宴会があり、また室谷に来てと言われた時はとても嬉しか

った。

私たちも楽しませていただき、皆さんの室谷に対する熱い想いや地域の連携をひしひしと感じたとても魅力的な祭りであった。そして、このように老若男女たくさんの人々が参加し、楽しむことのできる集落行事はなかなかないのではないかと強く感じた。

### (3) 冬の生活 ・生業ヒアリング 等

副区長や昭七さんのご指導のもと、雪かきを行った。初めて雪かきを行う学生も多く、とても苦労した。素人が下手に雪かきを行うのは危ないと、昭七さんから早々の撤収を命じられ、生活文化のヒアリングを行った。

昭七さんからは、かんじきの作り方を 教わることができた。昔は、集落内の誰 もが作ることができたそうだが、今では 作れる方の方が少ないということだっ た。その他にも昔の生活生業をお聞きす ることができた。







### ● 昔の生業ヒアリング結果

・1月:休み

・2月中旬(11日以降)から3月:山へ入り木材調達

・3月:木材を川へ流し下流へ

・4月:木材を業者へ(やっとお金になる)

・5月:休み

・6月~12月:炭焼き釜作り(約2週間かかる)→炭づくりを繰り返す

・畑、田んぼは自分たちで食べる分を栽培→現在は販売も実施

ぜんまい栽培

#### もらい風呂ヒアリング調査

2月の調査活動のうち、1日はもらい風呂として、集落の方々のお家でお風呂を 頂いた。

夏には運動会があって子供から大人まで集落の人がほとんど参加していたという お話や冬にかんじき大会が 3 月頃にあり、こちらも子供から大人までレースに参 加したという昔の行事についてお話をお聞きすることができた。

また、冬の暮らしに関しても様々なお話を伺うことができた。冬の暖炉の組み立ては基本的には自分たちで行い、1日に20個ほどの薪を消費することや夏に貯めた薪は縦2m横2mほど(これが6つある)の物置に積み重ねておき暖炉が必要なくなる4月までにだいたい使いきるなどのお話を伺った。薪ストーブの長所はすぐ温まることであり、短所は消したらすぐ冷えることと地震時に火事になりやすいこと(電気ストーブなら自然と止まるけど薪ストーブは止まらないから)など薪ストーブについても詳しくお話を伺うことができた。

食文化についてもお聞きすることが出来、くじなという煮物があることや沢庵 を漬けるときに大根の葉も一緒に漬けると美味しいこと、またなめこ、まいたけ、 アジは缶詰にして保存食にすること等を伺うことができた。

#### 2-2-3情報・意見交換会(資料編 レジュメ・紙芝居資料参照)

(1) 青年会をはじめとする地域住民との情報・意見交換会

意見交換会は、何うたびに実施させて頂き合計で5回行わせて頂いた。1回目には、地元学の結果を共有し、調査結果の活用方法を検討した。2回目には、都市部との連携方策について検討し、大学でのイベント実施の可能性や豊島区社会教育施設である、みらい館大明との連携活動等について検討を行った。3回目には、イベントを通じた地域活動の今後の展開について意見交換を行った。4回目では、調査結果の最終報告を行い、5回目には、今後の活動検討を行った。その際に、イメージ紙芝居資料(本報告書末掲載)等を用いながら青年会会長指揮のもと、ふるさと学習キャンプの実施について検討会を行い、運営方法や実施体制、プログラムの策定などを検討する企画会議を行った。

室谷内で実施が可能であり、青年会の方々をはじめとした地域住民の方々の負担になってしまわないよう考慮することはもちろん、如何に室谷の魅力を高校生 へ伝えていくかを検討した。そして、青年会及び青年会活動の充実を図れるような プログラム設計を行った。

#### (2) 阿賀黎明高校へ調查報告

阿賀黎明高校の校長先生、副校長先生へ今年度の調査報告及びヒアリング調査を実施した。ヒアリングの際に、ふるさと資源を生かした教育プログラムを模索中であることをお聞きすることができた。

また、高校生と座談会の時間も取って頂き、高校生へ大学とはどのようなところなのか、我々大学生は大学で何を学んでいるのかなどのお話を高校生とさせて頂いた。

#### (3) 黎明学舎見学

公設公営の塾である、黎明学舎の授業風景を見学させて頂いた。塾長先生より、 塾の運営方法についてお聞きすることができた。まずは、学習時間の底上げをとい う考え方の元、学習時間の記録をとることにより、成績の上昇・下降に対するエビ デンスを3カ月かけて作成してきたということであった。また、塾に来ていた高校 生たちへお話をお聞きする機会もいただき、座談会の感想を高校生からお聞きす ることができた。

#### 3事業(調査)結果と考察

地域資源調査、地域活動調査、意見交換会を通じて、青年会をはじめ地域組織にはふるさと自然・文化を基盤として様々な学び(森、川、食、暮らし、産業、交流、環境、国際など)を促進する「教育力」が存在することが明らかになった。その一方で、地域資源が未活用であり、これら地域資源を担い手育成・町外若者の誘引のために活用していく新たな方策が求められていることが浮き彫りになった。

阿賀町室谷地区の青年会及び地域団体は、室谷の活性化に向けて意欲的に活動を行って おり、地域資源を活用した担い手育成・町外若者の誘引においても意欲的である。また、青 年会の活動をサポートする体制として、室谷地区の区長をはじめとした地域住民、地域組織 においても青年会の活動に協力的であり、大正大学、東京農業大学からの人的支援、戦略支 援の体制も整っている。

阿賀町では、阿賀黎明高校及び28年9月開設の公設公営塾「阿賀黎明学舎」において、 ふるさと資源を活かした教育プログラムを模索中である。町外からの新しい高校生(留学生) の誘引や都市部への阿賀町教育活動の魅力の訴求向上を図っており、地域としてのニーズ があると言える。

### 4 今後の方針

青年会をはじめとする室谷区地域団体及び阿賀黎明高校、阿賀黎明学舎において、ふるさ と資源を活かした担い手育成、教育プログラムの構築に、ニーズがあると言える。

そこで、青年会を軸とする若者育成プログラムの構築と内 - 外協働の学習・交流産業作り (地域活性化と青年会の若手担い手育成・誘引を相乗的に向上させる地域生業作り)を実施 する。

初動段階の取組として青年会・高校生・都市大学生協働による阿賀町ならではのサービスラーニング、キャリア教育プログラムを設定・実施していくことを予定している。来年度は、青年会を軸とした教育・交流産業モデルとして、室谷の資源を活用して高校生と共に行う地域学習プログラム「ふるさと学習キャンプ」(仮称)の試行実践を提案する。

### 4-1ふるさと学習キャンプについて

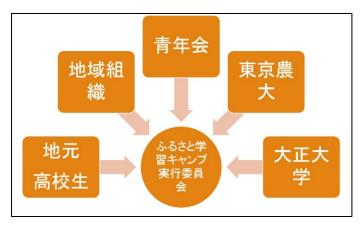
青年会を主体とし、地元高校生をはじめとする若い世代に対し室谷区の持つ魅力や昔ながらの生業を伝えるため、実施する。ふるさと学習キャンプの実施により、地元高校生の地

域愛を育み青年会の次世代育成、 地域の担い手育成を目的に実施 する。

また、ふるさと学習キャンプの 展開として、キャンプのプログラ ムの中で取り扱う食やクラフト 活動を産品開発につなげること も目指す。今後、ふるさと学習キャンプの参加券や開発した産品 を、ふるさと納税返礼品等として 活用することも視野に入れ実施する。

実施体制としては、青年会の負担を協力減らし地元高校生や都市部の協力者が柔軟に参画することができるよう、実行委員会形

1日目	内容	2日目	内容
10:00	集合	8:00	起床
10:30	畑作業体験	8:30	朝食
11:30	郷土料理教室	9:30	地元学
12:30	昼食	11:30	発表会
14:00	川遊び(漁体験含む)	12:30	解散
15:30	昼寝		
16:30	活動取りまとめ		
17:30	自由		
18:30	夕食準備		
19:30	夕食		
21:00	就寝		



式の別組織の設立により行うことを想定する。

ふるさと学習キャンプ実施において、期待される効果として以下の4点があげられる。

- 地域志向
- ② 黎明学舎
- ③ 阿賀黎明高等学校
- ④ 都市部若者の誘引

①地域志向については、地元地域での主体的な活動及び多世代での交流によるメンターの発掘は、都市部に出た後にも自身の中に残るものであり、実際に地元で働いている青年のメンターがいることにより、自身の青年後の地元での生活をイメージすることができる、イメージすることができることにより、地域回帰はハードルの低いものになると考えることができる。

②③については、今後、青年会と実施するふるさと学習キャンプを活用し貢献できるような形を構築していきたい。

④都市部での自然体験に対するニーズは比較的高いと考える。広報の仕方次第ではあるが、都市部の若者をキャンプを中心とした自然体験を目玉に、阿賀に誘引することは可能であると考える。また、キャンプなどのイベントに参加することにより、室谷区をはじめとした阿賀町の魅力を知ってもらい、将来的には移住者の増加も見込めるのではないか。

### 4-2今後のスケジュール(案)

ふるさと学習キャンプへの参加をきっかけに、地元高校生の室谷区の伝統行事への参加、 運営参加を目指す。

初年度は、青年会及び大学生にてふるさと学習キャンプのプログラムを作成する。初年度

のふるさと学習キャンプを実行委員募集のツールとする。実行委員会設立後、実行委員会は伝統行事の運営等を青年会と運営を行う。

青年会は、主に実施プログラムの作成及び実



行委員会の運営、イベント運営、地域との調整役を担う。大学は、地元高校への広報をはじめ、都市部でのPRや広報戦略の策定などを担う。

### 1その他の首都圏等での PR や波及展開活動

都市部との交流活動として、以下の活動を実施する。

1-1コミュニティカフェ

地方地域と都市を繋ぐため、学生による活動紹介及び地方地域のPRを目的としたカフェを大正大学にて実施。

第1回:3月24日(十) 実施予定

1-2みらい館大明

地方地域のPRを目的に、都市部の団体と連携し、地域の産品を販売するカフェを 1 年間実施予定。都市部での経常的な販売・提供により、地域のPRはもちろんのこと、産品販売による経済活性化を促すことを目指す。

### 2終わりに

今年度は、年間を通じて青年会をはじめとする地域住民の方々と信頼関係を構築し、イベント実施の体制を整える年であった。地元の青年会に皆さん方と共に提案を取りまとめていく中で、イベント実施に対し非常に協力的な関係を構築することができた。これは、青年会をはじめとする地域の方々が集落外の人間である我々を暖かく迎えてくださった結果であり、青年会の方々の室谷活性化に向ける熱意により実現できたものであるといえる。今後、青年会をはじめとする室谷区の方々と、より密な関係の構築を図りつつイベントの試行実践と波及展開策を検討していきたい。

#### 参考文献

「阿賀ものしり町ガイドブック」阿賀町ふるさと検定実行委員会 2010

「鹿瀬町閉町記念誌」鹿瀬町 2005

「ふるさとの歴史と文化」上川村教育委員会 2004

「津川町の歴史と文化財」津川町教育委員会 2004

「改訂版ふるさと学習推進プログラム」上川村教育委員会 1998

「新潟県上川村神谷地域学術総合調査報告書かみたに自然編」上川村 1996

「新潟県上川村神谷地域学術総合調査報告書かみたに人文編」上川村 1996

「資料上川村史」上川村教育委員会 1984

### 資料編

- ①地域調査カード
- ②食文化カレンダー
- ③地域意見交換会報告資料 (レジュメ・イメージ紙芝居)
- ④中間報告プレゼン資料
- ⑤最終報告プレゼン資料

タイトル	キーワード	地区	写真	説明	備考
猟師				集落に住む猟師は1人、昔は4~5人。ほとんど猿追いのために鉄砲を使用。カモシカ、11月ごろ熊(冬眠前)、ウサギが激減、ヤマドリ(11月15日~2月15日まで)メスはあまりとらない。サルは昔は珍しかった。ツバメは人間が住むところにいる。	
大沼				大沼があって田んぼに水を引いていた。熊が出る。トキソウ(薄ピンク)、ジュンサイ(薬になる、ぬるぬるしている)、かぼちゃのツルに似ている。みぞをしまったため、水が干上がった。	
木材				スギ、ブナ、ホオノキ、くるみの木 (ありかはおばあちゃんたちのみ ぞ知る)	
山小屋				道路建設の時現場事務所として建てられた。鍵がかかっていない。誰でも使用可能。コウモリが住み着いててフンがたくさん落ちている。	とてつも なく殺風 景でと も怖い
天神岩				落ちそうで落ちない岩。夫婦岩の 左側にある。	「落ちない」 い」 お お ら 会格 が の 所 願 に よ さ そ う う う ろ ろ う う ろ う ろ う う う る う る う う る う る

ダム計画	ダム調査で掘った、まぜるのに適 しているか調査した。ダム計画付 近の山。新しいダム計画のためだ が、お金が足りなくて中止。昔の 集落のままだったら誰もいなくなっ ていただろうな byさぬきしょうき ちさん	かった。
原生林	ファの原生体、体野庁、下越株体   一	新潟大 学も来る らしい
夫婦岩	(離れたらおつかない。とつらか ドッナ かけわからない 単に主	くっつか ないのか い!!
炭焼き小屋	1Fり。当りためにありて変える、 タルに担じ原士が採れる関けるこ	使わな かったら しい。
山の神	だ。シンダク。田に入って田来な どを採りに行くときお参りしてから いった。神様に歴別は関係ない	湯呑にお 金を入れ るところ が良い。

砂防ダム	水が尽きることはない。昔、木を	ここはと ても気持 ちが良い
鉄分が含まれた川		鉄っぽい におい
禁漁	無の禁漁区(イワナ・ヤマメ) 最近 の話 国造様	
不動滝	春の雪解け時期が一番水量が多い。尽きることはない(木のおかげ)昔は近くまで行けた。神様が祀られている(お不動様)	
室谷ルート	御神楽岳の初心者コース。新しく作られたルート。昔からあるのが上級者コース(セミガダイラコース)御神楽岳は200名山。	

### 資源調査カード(山)

岩から湧き出る水	とにかく水が豊富で岩などの隙間 から水がどんどん流れているので 道路のほうまで水浸しになってい る。	水が豊 のが は気 が 元 証 しょう
山菜取りの場 所	の人が良へたり売つたりするので   「奴えの禁止、共は得えしたたまれ	ゼンマイ は村の 宝

### 資源調査カード(川)

タイトル	キーワード	地区	写真	説明	備考
ヤマメ (山女魚→サク ラマス)	山女魚	室谷		パーマークが大きい。まだら模様。渓 流女王。 支流で生息してい る。	
地形		室谷		地形が変化している。子どもは一人で入ってはいけない。 高校生は村にいない。 石が変わったため、 カジカが少ない。砂が入り込めない。	
しょうぶ	しょうぶ	室谷		においしょうぶ。お 風呂に入れる。	
カジカとり	カジカ	室谷		ついでに取ることが 多く、小学生が主に とる。カジカは、後ろ からつく。	
くもりどめ	ヨモギ、ゴーグル	室谷		ヨモギでゴーグルを こすり、くもり止めを する。	

サカナヤス	室谷	大きさによって使い 分ける。マスは、上 流までそじょうす る。 サケは阿賀野川から床波川一部まで 上流。サケも中流ま では来ている。そ じょうしたサクラマス は、メスの方が大き い(60cm~70cm)メ ステストナスニョン マスは神経を傷つ	
ひっかけがき	室谷	ヤスは神経を傷つ ける。昔からあり、 誰かにやり方を特 に教わったわけで はない。 今はあまり使われ ない。それだけ魚が 少なくなっているの か、難しい。 自分で作っている。 40~50年前は使っ	
イワナ	室谷		
ヤツメウナギ	室谷		
アミ(すくう用)	室谷	あみは昔持って歩 かなかった。	

### 資源調査カード(川)

アミ(入れるア ミ)	室谷	木での手作りから、 玉ねぎの袋へ変 わっていった。	
マット	室谷	今の主な川の遊び場。マスは、2本ほどいるところ。子どもの時の泳ぎ場。 まんがんぶち	川遊び場 マス場
アユ	室谷		

タイトル	キーワード	地区			備考
民泊		室谷	写真なし	中学二年生くらい。夏多い。冬もたまに。6年くらいやってた。もうやめた。	
獣			写真なし	猿ばかり、野菜はほとんど猿にやられる。狸、熊はあまり見ない。かがが仕事に来ると近くで見てる。男の人が来ると逃げてく。サルは人里にも平気で降りてくる。	
人体ぶしん	共同作業		写真なし		
クワガタ、カブトム シ				小学生、夜山へ行き(橋の街灯)ライト アップ、採取して売る。大きくして売 る。オオクワガタが普通に網戸に飛ん でくる。最近は人が入って数が減りつ つある。	
タイトルなし			写真なし	海だった。緑しょくぎょうかいがん(別名グリーンタフ)めいせんがいという。 朝鮮半島にもいる。つながっていたと いうこと。同じ名前で土壌改品あり	
ゆでがま			写真なし	山菜をゆでる。外でやる。塩漬け	

グリーンターク		写真なし	土壌が柔らかくなる。	
ゆうがお		写真なし	油いため、青い色60センチくらい、あまり大きくなると固く、うり。しその葉、夕顔は夏に名rとよく出る。どこの家でも作っている。独特な触感。癖がない。10分くらいで煮る(やわらかい)味噌汁。水分が多い。	
きゅうりの漬物			砂糖と塩でもんでつける。野草は猿に やられる。畑はみな持っている。ババ が畑の仕事をしているとサルは近くで 見てる。男の人がくると逃げてく。	
みょうが	みょうが		これからが旬。今朝撮ったわせみょうが(早めのみょうが)。 白くゆでて砂糖、酢で味付けしてピンクになる。あけみょうがはもう少し遅い。	
なすびたし		  写真なし 	朝採り。ナスは切れ目を入れて素揚げ、タレを作っておいてつけておく。生姜を入れておくとおいしい。タレは家によって味は違う。ナスは大きいほうがいい。	がわかるのは面白
きゅうり漬け		写真なし	今が旬。塩と砂糖でもんで一夜漬け。	
村仕事	共同作業	写真なし		

獣害	猿、畑	写真なし	猿、次々と食べる。女の人には舐めて かかる。熊などはいない。畑は家に近 く、近いのに来る。	
なめこの工場			常に働いているわけではない。 集落の人が来てやるという感じ。	
猿対策用ネット				どこでも悩まされて いる問題。悲しい。
畑			私たちが思いつくのはすべて作っている。ジャガイモ、ピーマン、南瓜、玉ねぎ、きゅうり、トマト、里いもなど。里芋は猿は食べない。	
児童館				行ってる人が少な い?今はどうなって いる?
公園				こんな遊び場がたく さんあるのに、公園 もあることがすご い。
薪ストーブの煙突			前に使っていたもの	村の人はきちんと 取っておくことがで きる

### 資源調査カード(集落)

かかし			河合らしい。でも女 の人を舐める猿に 女の人の姿は意味 があるのか?
まきごや		まきや、さまざまな道具がしまってあ る	まきストーブのある 家の多い。村の人 にとって「冬」が大き なポイントとなって いる。
プール		今は使っていない。学校のプール	手入れしたら何らか の目的で利用でき そう
田植え用長靴		長井。中の新聞紙は湿気取り	

### 資源調査カード(食)

タイトル	キーワード	地区	写真	説明	備考
郷土料理のおばあ ちゃん		室谷		右:清野ミエさん 左:石田フミ コさん 83歳 同級生 室谷生 まれ室谷育ち 室谷結婚 薄 味が好き	
	ぜんまい もうそう竹	室谷		日本一のぜんまいと言われていた 4月末から5月山でとってくる 残枚を一本の長さで油で炒める。出汁と醤油で味付け。もう そう竹は他からもらう。 日常でも食べるが、昔からお正 月やお彼岸等のごちそう。 今は数量が減少し昔ほど取れなくなった。	苦みもなくお
わらびのおひたし	わらび ニンジン	室谷		わらびの塩漬け。醤油、みりん、砂糖のたれをつける。たれを先につける。わらびは、ちょこちょこ行ってとってくる。できるところは決まっている。 他の人がはいいてくるようになってから、少なくなった。わらびは、各家でとる。	いられる。 住民以外が 入ってきて山 菜が減ってい
漬物部屋		室谷			
ぜんまい		室谷		太く、長く有名 乾燥させて小屋の中で保存	

### 資源調査カード(食)

ひらたけ		室谷	味噌汁や鍋によい 天然もの	
モッコ		室谷	山菜を取ると2.5キロ位までなる。 昔の着物をほどいて作る。	
わっぱさみ		室谷	大根おろし、ニンジン、唐辛子を煮込んで味付け。 家によって味付けが変わる。 砂糖や豆を入れる家もある。	
豆のクルミと豆腐和え	豆・豆腐。クル ミ	室谷	モロッコ豆(ツイタチマメ)8月上旬に収穫、クルミは昨年の9月末に拾い、日で3~4日乾燥させる。 クルミは火で焼き割ってすり鉢で、豆腐と混ぜる。 豆はゆでて切って和える。日常的に夏食べる。	
いもみそ	ジャガイモ・し そ	室谷	男爵イモを皮つきでゆで、醤油、みりん、シソの葉で味付け。 今年のジャガイモは小さい。サルが出たため、早めに収穫した。 夏の7月~8月食べる。	

### 資源調査カード(食)

みょうが		室谷		
ほうの葉蒸し	ほうの葉	室谷	イワナは味噌をまぶしほうの葉 で包んで蒸す。	
ヤマメ		室谷	基本は焼いて食べる	
カジカ		室谷	塩をまぶして焼く	
茄子びたし	なす	室谷	姜を入れるとおいしい)家に	今まで食べて きた中で、一 番おいしかっ た。

ふ汁		室谷	おふをふやかし、醤油と油を入れ煮込む。生姜を少し入れる。 家によりおふの大きさは異なる。祝い事に出てくる。	
きゅうりの一夜漬け	きゅうり	室谷	砂糖と塩でもむ。ジキニンとい う大きなきゅうりも作っている。	
大から	レンコン・シソ の葉・にらの 葉・ピーマン・ かぼちゃ	室谷	レンコン: 新潟こせんしで取れたもの。ゆでて水にさらし天ぷらにする。 しその葉: 家の畑で取れたもの。 にら: 家の畑で取れたもの。の だらいてで取れたもの。のびたら収穫を秋まで繰り返す。 ほうっておくと白い花が咲く。 かぼちゃ: 家の畑で取れたもの。 サルにやられなかったものを収穫。	
ゆうがおの油いた め	ゆうがお	室谷	ゆうがおは、夏に収穫。油いためには、しその葉を入れる。夏には良く食べる料理。癖がなく、独特の触感。ゆで時間は10分。ゆうがおは、味噌汁にしてもいい。青い色で60cmくらいのものを収穫する。あまり大きいと固くなってしまう。	
マスのたまご		室谷	塩と醤油でつけたたまご	

### 食文化カレンダー

	時期	行事	食	農業	山菜・キノコ	備考
上旬	1月1日(元旦)	·元旦	・とろろご飯 ・どぶろく ・カワマスの飯漬け 臭いがあるがおい しい			・タイトル 内容
	1月11日	・俵祝い(評定?) 一年の豊作を願う	・餅 ・大根の漬物 子供がお餅をもら いに家を周る			昔の行事(今は やっていない)
中旬	1月15日	<ul><li>・さいの神</li><li>各家から古いお札などを集めて木に刺す、6時半頃点火</li></ul>				
	1月17日	・観音講 三十三番(観音 様)主婦の集まり				
	毎月20日 (5月10月 はなし)	・二十日様 仏様の供養	<ul> <li>・山菜</li> <li>・キノコ</li> <li>・お菓子など</li> <li>・大根煮</li> <li>・塩漬け</li> <li>・麺を入れてニシンをつけて食べる</li> <li>・赤くあん</li> </ul>			・魚は食べない
上旬	2月1日		・クチワリダンゴ くるみ、納豆、おろ し大根、小豆あんこ ・大根の味噌汁			
	2月3日	・節分 豆まき	・三角餅 ご飯をつぶして、 三角に作って、ガス で焼く			
上旬	3月3日	・おひなさま 孫のために飾る	<ul><li>・菱餅</li><li>・おりもち</li><li>昔、鏡餅を折り曲</li><li>げて男性が食べて</li><li>た</li></ul>		・・フキノトウ採取	・折り餅はおば あちゃんの息子 娘世代
下旬	3月20日	・お彼岸様 昔、仏さまにごち そうしたものを家に 持って帰って物々交 換をする	・お菓子 ・赤飯など		フコンI <sup>*</sup> フ1末4X	・お盆と秋にも やっていた

	4月~6月				・ゼンマイ	8の付く日は 取ってはいけな い
上旬	4月3日	・お不動様のお祭り	•赤飯			・行けないとき は気持ちだけ
下旬					・アザミとこごみ	
上旬	5月5日	•節句		・イモ類(特にジャガ イモ)を植える ・ネギ植える	・ゼンマイ・ウド	・ささまきは作ら ない
中旬	5月連休明 け	・さなぼり	・ささもち お餅を笹で巻いた もの、バイ菌が付か ない	・白菜植える ・大根植える ・田植え	・ウルイ ・タケノコ(ジンダケ)	・昔は6月15、16 日にやっていた
下旬	5月			<ul><li>・アスパラ収穫</li><li>・ニンニク収穫</li><li>・春大根収穫</li></ul>	・キノコ	
	6月			・夏野菜植える	・ワラビ・ふき	
上旬	7月7日	·七夕			・ふき	
中旬	8月13~16	・お盆 ・ふれあい祭り(ふ るさと祭り(16日))	・山菜、夏野菜を使 用した料理	<ul><li>・大根植える</li><li>・白菜植える</li><li>・キャベツ植える</li><li>・ブロッコリー植える</li></ul>		・ふるさと祭りは 上川だけ
中旬	9月13日	▪室谷祭	・行事色はなし			
下旬	9月末		・たんぽやき くるみのたれ	・稲刈り ・ナス収穫 ・キュウリ収穫 ・豆収穫	・マイタケ収穫 ・マツタケ収穫	

### 食文化カレンダー

下旬	10月末		<ul><li>かわますの飯漬けをつくる</li><li>豆腐納豆をつくる</li></ul>	・なめこ収穫	・今はやってな い
中旬	12月12日	・12日こう	- 餅		
下旬	12月23日	•山夜様	<ul><li>餅やおはぎをお供え、その後食す</li></ul>		
	12月26日	•六夜様	<ul><li>おはぎ、団子をお供え</li></ul>		・今はやってな い ばあちゃんは やってるかも

### 阿賀町室谷区 青年会を軸とした地域研究・実践活動のこれまでと今後の展望について

平成29年2月 意見交換会資料

大正大学・東京農業大学学生

指導教員 大正大学 大川 洋史

東京農業大学 杉野 卓也

連携教員 大正大学 出川 真也

アドバイザー教員 大正大学 福島 真司

### 1. 研究テーマ

地域青年会との協働による若者の山村一都市交流と新たな地場生業の創出

### 2. 集落の概要と課題

阿賀町室谷地区人口115人、世帯数29、高齢化率35.6%。

過疎化高齢化に起因する集落活動の減退や地域資源保全管理の課題。集落の若手世代層を中心に構成される「青年会」による新たな活動展開の萌芽が見られることが注目される。



室谷の夕べ 青年会の皆さんとの交流の様子

### 3. 調査研究の目的

青年会がチャレンジしようとしていることに寄り添い、構成メンバーと協働しながら研究調査活動を 進めることで、青年会・若手世代層が軸となって地域活性化に寄与できる集落の自然・文化的資源に根 ざした新たな活動プログラムや生業を提案する。

#### 4. 本年度事業の実施内容と結果

(1) 事業の流れ

### 1.地域資源調査(8月)

自然・文化・人的資源の全体 的調査の実施

- 森・川等の自然資源
- ・暮らし・生業などの生活 文化資源
- ・それらを担う人的資源

2.地域活動調査(9~10月)

地域集落活動の参加的調査の実施

- · 伝統行事
- ・青年会を中心とする新たな地域行事

3.意見交換会(2月)

地域組織とのワークショップ型の情報・意見交換の実施

- ・青年会
- ・その他集落組織(自治 会・老人会・女性会・子ども 会等)

の検討・提案ざした新たな活動プログラムや生集落活性化に寄与する地域組織に

業根

#### (2) 実施内容

- 1) 地域資源調査 8月5日~10日 「地元学」の実施
  - ・青年会・住民と集落の資源調査を実施
  - ・山林、川、食文化、住まい・暮らし、 道具などの掘り起こし。



川の文化(川漁)調査の中では大イワナを捕獲

- 2) 地域活動調査 9月10~11日、10月8~9日
  - 青年会が取組んでいる地域活動に参加、取材。
    - ・室谷祭礼 伝統行事 神輿担ぎ、その後のお楽しみ会の開催のお手伝い
    - ・おもっしぇぞ祭(旧神谷分校学芸会): 開催の手伝い・見学取材・出演







子どもたちお楽しみ会のお手伝い



地区の芸能祭(おもっしぇぞ祭)への出演

#### 3) 意見交換会 8月~2月

第1回 意見交換会 8月9日 地元学結果の共有 調査結果活用方法の検討

第2回 意見交換会 9月10日 都市との連携方策についての検討

第3回 意見交換会 10月8日 イベントを通じた地域活動の今後の展開について

第4回 意見交換会 2月6日 調査結果報告(予定)第5回 意見交換会 2月8日 今後の活動検討(予定)

作成した地域資源マップをもとに活動を検討

#### 5. 結果と今後の方針案

### (1) 結果

- ・青年会はじめ地域組織にはふるさと自然・文化を基盤として 様々な学び(森、川、食、暮らし、産業、交流、環境、国際な ど)を促進する「教育力」が存在することが明らかになった。
- ・一方で地域資源が未活用。これら地域に根ざした宝を、担い手育成・町外若者の誘引のために活用 していく新たな方策が求められていることが浮き彫りになった。
- ・阿賀町では阿賀黎明高等学校及び28年9月開設の公設塾「阿賀黎明学舎」において、ふるさと資源を活かした教育プログラムの設定を模索中。町外からの新たな高校生(留学生)の誘引や都市部への阿賀町教育活動の魅力の訴求向上を図っている状況がある。

#### (2) 今後の方針

- ・青年会を軸とする若者育成プログラムの構築と内 外協働の学習・交流産業作り (地域活性化と青年会の若手担い手育成・誘引を相乗的に向上させる地域生業作り)
- ・初動段階の取り組みとして青年会・高校生・都市大学生協働による阿賀町ならではのサービスラー ニング、キャリア教育プログラムを設定・実施
- →来年度は、青年会を軸とした教育・交流産業モデルとして、地域青年会を軸に室谷の資源を活用した高校生向け地域学習プログラム「ふるさと学習キャンプ」(仮称)の試行実践を提案する。

# 紙芝居次第

幅野裕敬

### 紙芝居はじめ

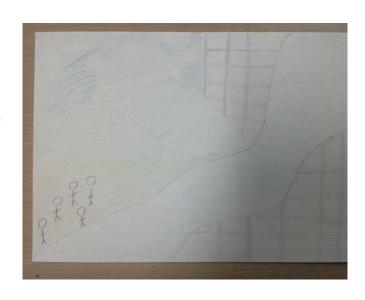
■ 紙芝居にした経緯の説明



## 大学生が室谷に来た 理由

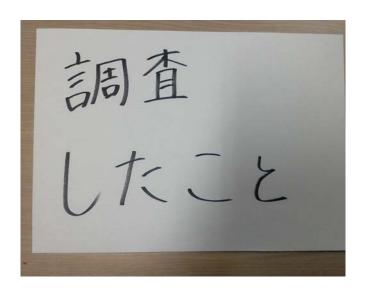
■ 大学生が室谷に来た理由を説明。

→青年会のやりたいことの手伝いをしたいこと、室谷にとって最良の結果をつくりたいこと。



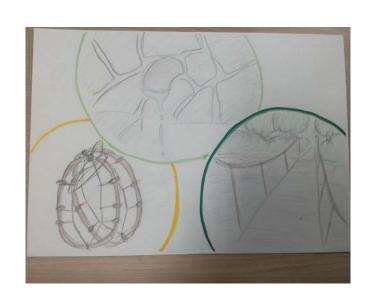
### 調査したこと

■ これまでの調査の成果を報告する。 →地域資源カードを提示しつつ、室谷の魅力を再確認してもらう。



### 集落について

■ 集落をめぐり、発見した魅力を青年会に 提示していく。



### 食文化について

■ 室谷の食文化の魅力や面白さを、都市部の学生の目線から伝える。



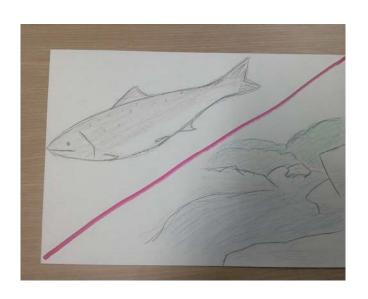
## 山について

■ 里山をめぐり、発見した山林資源の豊か さ魅力を農大生の視点から伝える。



## 川について

漁への同行、川遊びを通じて発見した、 水産資源の魅力、川遊びの面白さを都 市部の学生視点で伝える。



## 9月調査について

- 伝統文化の体験
- お祭りに参加したことで、感じることのできた空気感、青年会の魅力、伝承していくことの重要性を伝える。



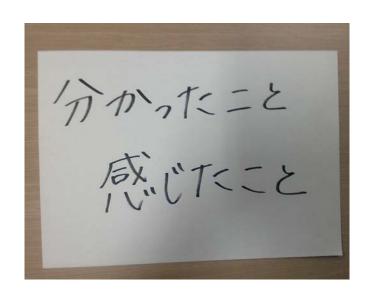
# 10月調査について

■ お楽しみ会参加



# 分かったこと・感じた こと

■ 調査を通じ、大学生が感じてきたこと、分かったことを報告する。



## 豊かな自然

- 室谷は豊かな自然に恵まれ、東京では 体験できないものが多くある。
- 豊かな自然との共存



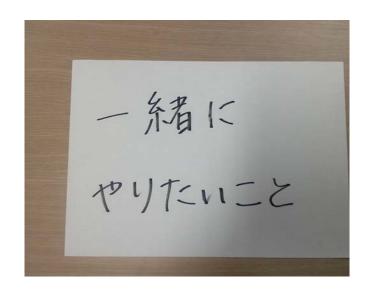
### 青年会の室谷愛

■ 我々が感じてきた、青年会の室谷への 愛、活性化への思いを伝える。



## 提案事項

■ 大学生が、室谷の魅力を知り青年会と一緒に【やってみたいこと】を提案



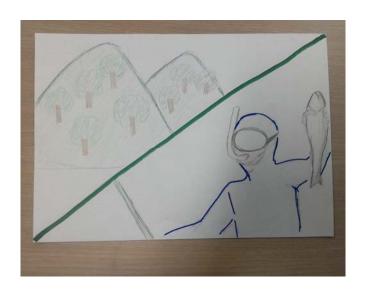
# ふるさと学習キャンプ

■ キャンプによる、地域文化・生業の伝承 を目的とする。



# 山と川を活用したプロ グラム

- 山菜採取や森林整備の方法などを青年会により教授してもらう。
- 川での漁や保全、遊び場などを青年会により教授してもらう。



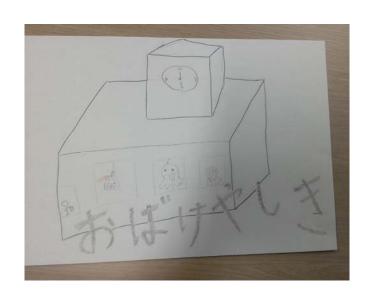
# 芝刈りなどの農具体 験

- 農具を実際に扱い、作業を体験。
- 農具の取り扱いなどの伝承、日常生活としての生業を継承する。



# 廃校活用プログラム

- 廃校を活用し、お化け屋敷などのアク ティビティを実施。
- 室谷の伝承や言い伝えなどを伝えることを目的とする。



## 冬期プログラム

- 都市部ではまず作ることのできないかま くらづくりなどのアクティビティを実施。
- 冬期の生活の大変やそれによって培われてきた生活の知恵などを伝承する。



# スタンプラリー

- 地元学の前段として、都市部住民や高校生が楽しめる形で、室谷の魅力を伝えていく。
- 室谷各所にポイントを設置し、青年会によるクイズや案内などを行う。



# 大学生が理想とする 室谷の未来

- 上記の取組により、地元高校生の地域 思考・地域回帰志向を向上させる。
- 都市部との連携やプログラム参加者による室谷の認知度向上。
  - →住民増加を目指す。





# 1)地域概況

- 阿賀町室谷地区
- 人口115人
- 世帯数29
- 高齢化率35.6
- 過疎化高齢化によって集落活動が減退。
- 一方で若手構成員(21~34歳)を中心とした青年会によるイベント活動などの活性化策が模索されている。



# 2)調査研究の目的

- 室谷地区では、過疎化高齢化に起因する集落 活動の減退や地域資源の保全管理といった点 で課題を抱えつつも、集落の若手世代層を中心 に構成される「青年会」による新たな活動展開の 萌芽が見られる。
- 青年会がチャレンジしようとしていることに寄り添い、構成メンバーと協働しながら研究調査活動を進める。青年会・若手世代層が軸となって地域活性化に寄与するための集落の自然・文化的資源に根ざした新たな活動プログラムや生業を提案する















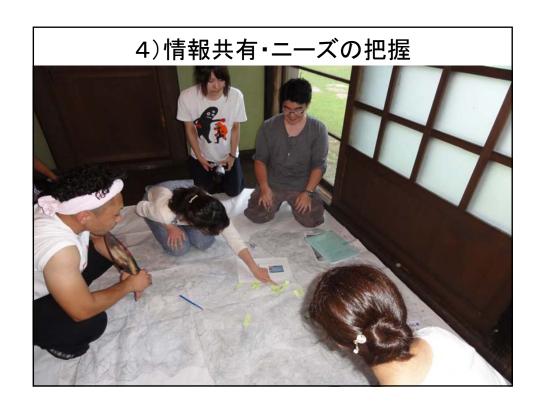
















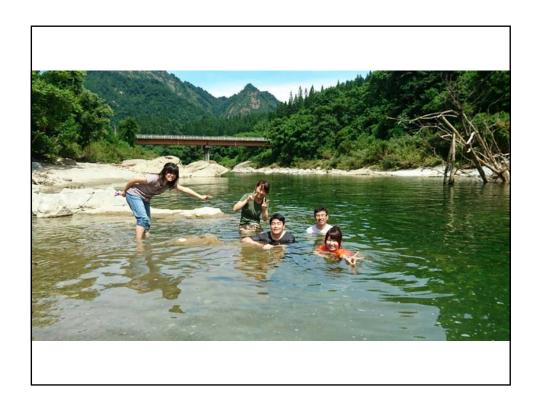












5) 青年会による地域活動への参加型調査 室谷祭礼への参加・協力







# 6) 町役場関係部署との意見交換と 提案事項の検討





58

### 今後の調査展開予定

### (1)地域資源調査

自然・文化・人的資源の 全体的調査の実施

- ·森·川等の自然資源
- ・暮らし・生業などの生 活文化資源
- ・それらを担う人的資源

### (2)地域活動調査

地域集落活動の参加的 (3)情報・意見交換会 調査の実施

- •伝統行事
- ・青年会を中心とする新 たな地域行事

地域組織とのワーク ショップ型の情報・意見 交換の実施

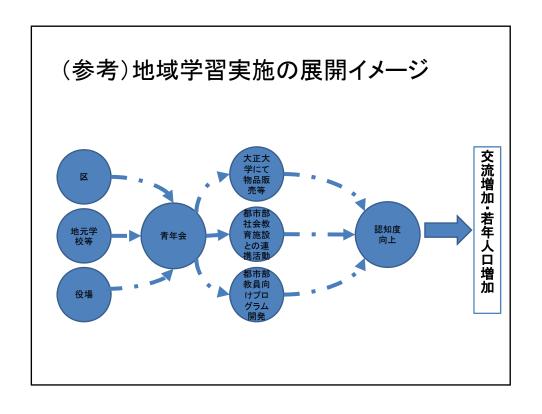
- •青年会
- ・その他集落組織(自治 会·老人会·女性会·子 ども会等)

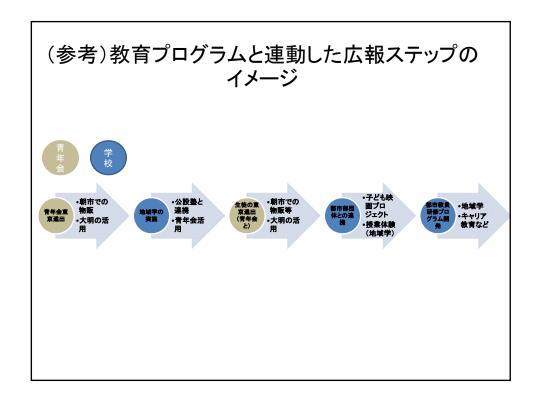
新たな活動プログラムや生業の検討・提案集落活性化に寄与する地域組織に根ざした

### (参考)室谷区青年会を活用した地域学習活動に関する構想

- 1. 町営塾や地元学校のカリキュラムに、青年会を中心とし た地域活動団体を位置づけ
- 2. 地域資源に精通した人材を積極的に活用した地域学習力 リキュラムの構築
- 3. 地域学習をおこなうに当たって社会力・学力両面での関 連性や効果について明確な指針を構築
- 4. カリキュラムの設計・運営初動段階から青年会をはじめと する地域人材の参画・都市部若者の視点を導入
- 5. 地域講師の研修・サポート体制整備
- 6. 地域ガイドの会(社会教育関連、育成人材)と連携した地 域情報資源の活用

59







# 集落概要と課題

- ■阿賀町室谷地区
- ■人口 115 人
- ■世帯数 29
- ■高齢化率 35.6%
- ■過疎化高齢化に起因する集落活動の減退や地域資源保全管理 の課 題
- ■集落の若手世代層を中心に構成される「青年会」による新たな活動展開の萌芽が見られることが注目される

# 調査研究の目的

- ■青年会がチャレンジしようとしていることに寄り添い、構成メンバー と協働しながら研究調査活動を進める。
- ■青年会・若手世代層が軸となって地域活性化に寄与するための 集落の自然・文化的資源に根ざした新たな活動プログラムや生業 を提案する。

# 本年度事業の流れ

### (1)地域資源調査

自然・文化・人的資源の全体 的調査の実施

- ·森·川等の自然資源
- ・暮らし・生業などの生活文化 資源
- それらを担う人的資源

### (2)地域活動調査

地域集落活動の参加的調査 の実施

- •伝統行事
- ・青年会を中心とする新たな地 ・青年会 域行事

### (3)情報·意見交換会

地域組織とのワークショップ型 の情報・意見交換の実施

- •地元高校

新たな活動プログラムや生業の検討・提案集落活性化に寄与する地域組織に根ざした

# 本年度事業の実践内容①

- ■地域資源調査8月5日~10日
  - ■「地元学」の実施
    - ■青年会・住民と集落の資源調査を実施
    - ■山林、川、食文化、住まい・暮らし、道具などの掘り起こし。











# 本年度事業の実践内容②

- ■地域活動調査 9月10~11日、10月8~9日
  - 青年会が取組んでいる地域活動に参加、取材。
    - ■室谷祭礼 伝統行事 神輿担ぎ、その後のお楽しみ会の開催のお手伝い
    - ■おもつしえぞ祭(旧神谷分校学芸会):開催の手伝い・見学取材・出演









# 本年度事業の実践内容③

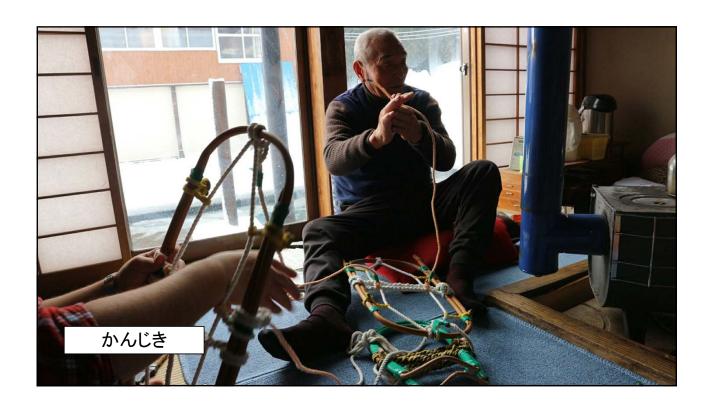
- ■地域文化調査 2月6日~9日
  - ■冬の生活文化を体験、取材。
    - ■雪かき体験
    - ■生活文化取材調査
  - ■阿賀黎明高校へ調査報告
    - ■先生方への調査報告・ヒアリング
    - ■高校生との座談会
  - ■黎明学舎見学















# 本年度事業の実践内容④

- ■意見交換会8月~2月
  - ■第1回 意見交換会 8月9日 地元学結果の共有 調査結果活用方法の検討
  - ■第2回 意見交換会 9月10日 都市との連携方策についての検討
  - ■第3回 意見交換会 10月8日 イベントを通じた地域活動の今後の展開に ついて
  - ■第4回 意見交換会 2月6日 調査結果報告
  - ■第5回 意見交換会 2月8日 今後の活動検討





# 結果

- ■青年会はじめ地域組織にはふるさと自然・文化を基盤として様々な学び(森、川、食、暮らし、産業、交流、環境、国際など)を促進する「教育力」が存在することが明らかになった。
- ■一方で地域資源が未活用。
- ■これら地域に根ざした宝を、担い手育成・町外若者の誘引のために活用していく新たな方策が求められていることが浮き彫りになった。
- ■阿賀町では阿賀黎明高等学校及び28年9月開設の公設塾「阿賀黎明学舎」において、ふるさと資源を活かした教育プログラムを模索中。町外からの新たな高校生(留学生)の誘引や都市部への阿賀町教育活動の魅力の訴求向上を図っている。

# 今後の方針

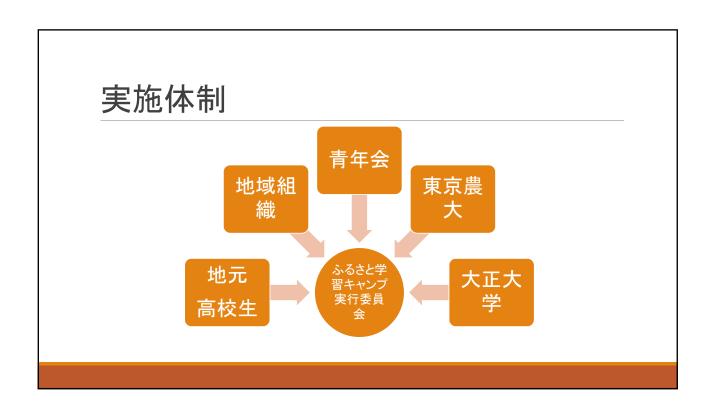
- ■青年会を軸とする若者育成プログラムの構築と内-外協働の学習・ 交流産業作り(地域活性化と青年会の若手担い手育成・誘引を相 乗的に向上させる地域生業作り)
- ■初動段階の取り組みとして青年会・高校生・都市大学生協働による阿賀町ならではのサービスラーニング、キャリア教育プログラムを設定・実施
- →来年度は、青年会を軸とした教育・交流産業モデルとして、地域 青年会を軸に室谷の資源を活用して高校生と共に行う地域学習プログラム「ふるさと学習キャンプ」(仮称)の試行実践を提案する。

# ふるさと学習キャンプ(案)

1日目	内容	2日目	内容
10:00	集合	8:00	起床
10:30	畑作業体験	8:30	朝食
11:30	郷土料理教室	9:30	地元学
12:30	昼食	11:30	発表会
14:00	川遊び(漁体験含む)	12:30	解散
15:30	昼寝		
16:30	活動取りまとめ		
17:30	自由		
18:30	夕食準備		
19:30	夕食		
21:00	就寝		

# 期待される効果

- ■「地域志向」「地域回帰志向」の形成・醸成
- ■黎明学舎地域プログラム形成への貢献
- ■阿賀黎明高等学校地域教育プログラムへの側面的寄与
- ■都市部若者の誘引





# コミュニティカフェ

### ■大正大学

- ■地方地域と都市部を繋ぐため、学生による活動紹介及び地方のPRを目的としたカフェを実施。
- ■3月24日(土)実施予定

### ■みらい館大明

- ■地方地域のPRを目的に、地域の産品を販売するカフェを1年間実施
- ■都市部での経常的な産品の販売・提供により、地域のPRはもちろんのこと、 産品販売による経済活性化を促すことを目指す。